

1999（平成11）年度 前期 京都大学 入試問題 解答例

*解答欄の行数を現在の京大入試の実情に合わせています。

問一（解答欄 四行）

新しく歳を取るのにふさわしい場所である、自然や他者と共有する共同体をないがしろにしては、筆者の身にさしさわりがでるおそれがあるが、それでもこの村で歳を取るなら、一緒にうまく歳を取ってもらいたいと願う気持ち。

問二（解答欄 四行）

筆者の歳取りの場所はこの村がふさわしいと村人が考えるようになった理由は、筆者が山里に春が巡ってくるたびに畑仕事をする中で、自然と人間の共同の世界を共有し、一緒に新しい歳を迎える者と村人が認めたからである。

問三（解答欄 三行）

山里は自然と人間に共有される共同体であり、そこでは自然のなかで行われる人間の仕事が各季節に応じて定まっており、自然とともに毎年循環してくるという意味。

問四（解答欄 三行）

山里は自然と人間に共有される共同体であり、そこでは自然と関係する仕事だけではなく、村人同士の間で行われる仕事もまた、自然とともに毎年循環してくるという意味。

問五（解答欄 五行）

「仕事」は、自然とともに毎年循環し、自然と人間の共同の世界である山里の時間世界と結ばれて成立する労働である。これに対して、「稼ぎ」は、山里の時間世界から離脱し、時計の時間を基準にした時間労働として成立し、収益を上げるための経営的合理性にもとづいておこなわれる労働である。